

地域参加過去最多2100人で防災訓練

宮坂建設工業

宮坂建設工業(帯広市、宮坂寿文社長)は2日、大規模地震の発生を想定した地域住民参加型の防災訓練を市中央公園で行った。東日本大震災の発生に伴う防災意識の高まりを受けて、過去最多の約2100人が参加した。

同社は1993年から訓練を実施しており、十勝沖地震の発生を契機に2003年から地域住民にも参加を呼び掛けている。午前9時に震度5強の地震が発生したと想定、本社に災害対策本部を立ち上げ、河川や建物の点検。パトロールを実施した。

中央公園では午前11時から炊き出し訓練、バケツリレーによる消火訓練などが行われた。高校生は社員の説明を受け、重さ約20kgの土のう作りも体験した。

地震体験車に試乗した帯広工業高3年の三島健太さん(17)は「もしもの時に経験を生かして対応したい」と話していた。同社の高道伸常務は「市民に地震や災害対応について関心を持ってもらうお手伝いになれば」と期待していた。

(犬飼裕一)



一般市民や小学生らも参加して行われた防災訓練